認定医審査ポスター | ライブ

## 認定医審査ポスター G7

Sun. Nov 8, 2020 8:50 AM - 10:50 AM C会場

# [認定P-42]義歯適合不良による歯科来院が下咽頭癌の早期発見につながった症例

〇齋藤 壮[1] (1. 東京歯科大学 老年歯科補綴学講座)

【緒言】

高齢者において口腔外の疾患の症状が口腔のものとして表出することがある。今回，義歯適合不良を主訴に来院した高齢患者の下咽頭癌を早期発見することができた症例を報告する。

【症例】

78歳の男性。既往に特記事項はない。入れ歯がゆるく飲み込みにくいことを主訴に当院に来院した。平成15年に無歯顎となり上下顎総義歯を装着した。平成28年に上下顎義歯の維持不良を自覚し始めた。平成29年に食事中に左側上顎結節部の疼痛と嚥下時の左側咽頭部疼痛および嚥下困難感を自覚しため当院に来院した。左側上顎結節部に潰瘍と嚥下時に左側咽頭部に疼痛が認められた。

【経過】

左側上顎結節部の疼痛は義歯床粘膜面不適合によると診断し，義歯の調整と製作を行うこととした。嚥下困難と嚥下時疼痛に関しては口腔カンジダ症もしくは嚥下障害を疑った。軟口蓋における真菌の培養検査が陰性であったため，口腔機能精密検査を行なった。口腔機能精密検査の結果、口腔不潔と嚥下機能低下が該当した。上下顎義歯製作と舌清掃指導および嚥下のスクリーニングテストを実施した。 RSSTと改訂水飲みテストを行なったところ基準値を超えていたが，左側頸部の可動域が小さかった。これらの結果を踏まえて、耳鼻咽喉科に精査・診断を依頼したところ，下咽頭部にステージⅠの扁平上皮癌が見つかり放射線治療を行うこととなった。舌の清掃は来院時に毎回鏡を見ながら確認し，義歯性口内炎や誤嚥性肺炎の危険性を説明し動機づけを行なった。放射線治療と並行して製作した義歯は問題なく使用できている。また義歯と口腔機能の管理中に発声が困難となり，オーラルディアドコキネシスが全ての音で基準値を下回ったため，舌や口唇の運動訓練を指導した。現在は定期的に口腔機能管理を行っており口腔機能精密検査の結果も改善されている。

【考察】

口腔機能精密検査の結果に対して，相応の所見が得られなかったことを踏まえて他科へ診療の依頼を行ったことで，下咽頭癌の早期発見を行うことができた。このことから口腔外の疾患の初期症状が口腔内に出現することを考慮して口腔機能精密検査の実施することが必要であると考えられる。また，放射線治療中も口腔機能管理を行うことで口腔機能の低下を防ぐことができた。

（ COI開示：なし）

©Japanese Society of Gerodontology